

# ばらんす

■ 編集発行 大田原市教育委員会生涯学習課 〒324-0041 大田原市本町1丁目3-3 ☎0287-23-8718 ・ FAX 0287-24-2528

## 寄稿 男女共生社会をめざして

国際医療福祉大学教授 寺 沼 幸子



男女平等・共生社会という言葉が誕生して久しいが真の意味は何だろうか。

最近の社会事情を見て悩んでしまいます。政治家・高級官僚・銀行マンなどのモラルの崩壊による事件を始め、毒物混入による殺人の連発。

そして子供の暴力や死傷事件の多発など、ニュースを見るたびに日本の将来に対する不安と心配で胸がふさがってしまいます。

私は電車で通勤しており、高校生の通学ラッシュと重なりますが、病院へ通院と見受けられるお年寄りの方が目前に立っていても席を譲る生徒を見ることはありません。

「代わって上げてくださいませんか」と声をかけると、ジ

ロツとにらまれるのが普通で、声をかけることに大変な勇気を要します。

世論調査によると「いじめられている子を見たらどうしますか」の質問に対し「やめろ」といえる日本人は一割、「見て見ぬふり」が半数を超えています。外国人では、半数がその場で「やめろ」といい傍観する者は一割程度だとのこと。

このように精神構造そのものが日本では大変に悪い意味での個人主義になっているとしか言いようがありません。

本来モラル感覚やルール感覚の基礎となる秩序感覚は三歳頃までに育まれると聞いていますが、これは家庭の中で規則正しい生活習慣を身につけさせることで自然に身につくものだと思います。

さて、最近フェミニズムの人たちが、父親も母親と同じ保育をして、家事育児を半分以上つやるべきだと主張してい

ますが、同じことをやるのではなくて、父性的なしつけ、例えば子供と一緒に遊びながら社会のルールを教えたり、鍛えたり、体験させながら人間関係を学ばせるといった役割を果たすべきで、お父さんにしかられたらお母さんがやさしく慰めてあげるといふ、いわゆる母性と父性のバランス、性別役割分担こそが絶対必要なことではないかと思えます。愛情豊かで健全な母性と、厳しさのある健全な父性が車の両輪となつてしつていく、これが最も大切なことだと考えます。

一昨年二月にクリントン大統領は一般教書で「家族の強化」を筆頭に上げました。これはアメリカにおける過度な個人主義に対する懸念の表明であり、家族や共同体の価値を認めようとしている故に外なりません。

日本では過去において男尊女卑的な考え方があり、外に出て働くことを尊び、家を守り治めることを軽視する風潮があつて、これは大きな間違いでした。両方が共に同じく尊いはず。

幸い私は女性の天性である出産育児という役割を果たしながら今日まで職業を両立させてきましたが、その過重な負担に対し誠意ある協力者であつた夫に対して、亡き今も感謝と尊敬の念を持っています。これこそ男女共生だつたのではと思うのです。

多摩大学学長グレゴリー・クラークは「日本人はムードに流されやすい感情的性格があり、マイインドコントロールされやすい」と評価しました。「昔は理性的で行動力と創造性の豊かな魅力的な日本人だつた」とも。

ムードに流されることなく今こそ本当の男女平等・共生社会の在り方を真剣に考える時ではないでしょうか。

〔大田原市女性問題懇話会委員〕





ホームヘルパー  
黒沢直俊さん

●現在の職業を選んだ理由は  
いま福祉の重要性が叫ばれて  
いますが、一人暮らしの方  
たちに、楽しい人生の過ごし  
方について、幾分でもお役に  
立てばと思います、ヘルパーの仕  
事を選びました。

主として、日常生活での余  
暇の上手な使い方や趣味の相  
談・話し合いなど楽しい生活  
の支援活動を行っております。  
●実際に仕事についての感想  
精神的支援ができ、やりが  
いのある仕事です。実際にお  
話相手となって、話を聞いた  
り、親身になって手助けする  
ことよって、お年寄りが、  
生き生きとすることが大変う  
れしいです。

●同僚の反応は  
社会福祉の協議会登録ヘル  
パーとして週二日程度この仕  
事にあたっています。男性は  
一人ですが、他の方たちとか

かわりを持ってやっています。  
男性は一人ですので、珍しが  
られています。

●訪問先のご家族の方たちは  
男性ですので、女性とひと  
味違った対応もあって、大変  
感謝されています。

●ヘルパーになってよかった  
と思うときは  
ささいなことでも感謝され  
た時です。

●この仕事を目標している男  
性に一言  
男性だからできない面もた  
くさんありますが、最も大切  
なことは、他を思いやる心が  
大切だと思います。

\*\*\*\*\*  
黒沢さんは、たくさんの資  
格をとられ、いま活躍中です。  
三級ヘルパー、レクリエーシ  
ョン協会公認レクリエーショ  
ン・インストラクター、余暇  
生活開発士、余暇生活相談員、  
福祉レクリエーション・ワー

カーなどです。現在、レクリ  
エーション・コーディネータ  
ーの資格取得のため勉強中  
です。



看護師  
柳沢弘美さん

からは、男性にも活動の場が  
広がる職業であること」など  
の言葉に、この職業を選び、  
その方面の学校へ進学いたし  
ました。

●仕事についての感想  
はじめは「看護師」という  
職業が、世間的にはまだなじ  
みが薄く、社会的認知が十分  
ではなかった時代でしたので、  
違和感がありました。

しかし、上司や同僚は大変  
理解があり、女性と同じく、  
能力や個性を伸ばしていただ  
き現在に至っております。

●同僚は  
職場が活性化され、好まし  
い職場の雰囲気醸成されて、  
歓迎する声も多いです。

●患者さんの反応は  
はじめは、男性に看護して  
もらうことに、もの珍しさや  
恥ずかしさなど、戸惑いもあ  
りましたが、最近では看護師  
も一般病棟にもみられるよう  
になり、またマスメディアで  
も取り上げるようになって、  
理解も深まり、患者さん方に  
も理解が得られ、定着しつつ  
あります。

(次頁へ)

どふる  
いらいふ

の人間として、個性や  
れる社会実現に向け  
れる3人の男性の  
お話を聞き  
ました。

キーワード(3)

●女子差別

正式には「女子に対するあ  
らゆる形態の差別撤廃に関す  
る条約」といいます。

一九七九年、国連総会で採  
択され、日本では、八四年の  
国籍法改正、八五年の男女雇  
用機会均等法の制定や家庭科  
教育の見直しなどの条件整備  
を経て、八五年に批  
准されました。

この条約は、あら  
ゆる分野の性差別は  
許されない、男女平  
等の実現には、男女  
の伝統的役割の変更  
が不可欠とされてい  
ます。

●パートナー

シップ  
家庭や職場、地域社会で男  
女が対等な立場で共に協力し  
ていくことがパートナーシッ  
プです。

そのためには、どちらかに  
依存したり、考えに従うので  
はなく、男女が共にいきいき  
と暮らせる社会づくりが  
大切でしょう。

●看護士になってよかったと思つとき

看護という職業を通して、様々な患者さんやその家族、また医療を介して、多くの方々との出会いがありました。

それによって、多くのことを学ぶことができました。

毎日毎日が緊張の連続、それがかえって刺激となり、充実した毎日を送ることができ感謝しております。

●看護士をめざす男性たちに  
病院内での活躍の場は、広がりがつあります。これからは、さらに医療・保健・福祉の分野に活動の場は広がることでしよう。

最後に柳沢さんは「女性は『看護婦』、男性は『看護士』という性別で区別する名称を用いているが、看護婦も看護士も同様な仕事をしているので『看護師』という統一した名称にしてもらいたい」と力説されていました。



幼稚園教諭 河野弘樹さん

●この職業を選んだ理由は

幼稚園教育の大切さと、幼稚園教育の分野での男性教諭の可能性や関係者の方々の勤めもありましたので、この職業に決めました。

●この職業についてみて

「子どもは、予想以上におとなである」ということが、まず最初の感想でした。

仕事はハードですが、無我夢中で頑張っています。とにかく、子どもたちから学ぶことが多く、毎日毎日が新しいことの発見の連続です。

●同僚の先生の反応は

通信教育で免許をとりましたので、どうしても実務面が

●子どもたちの反応は

男性ということもあるのだらうか、他のクラスの子どもたちも遊びにきます。「鬼ごっこ」なども、やはり男性というところで、迫力も違いますので、それがおもしろいのでしょう。またピアノがあまり得意ではありませんので、代わりにギターなどでやりますと大変興味を持って、ついてきます。

●幼稚園の先生になってよかったことは

たくさんありますが、朝元気いっぱいに「おはようございますー」と登園してきた子どもたちの笑顔を見ることが、子どもたちとともに、活動し

喜怒哀楽を味わい、ともに成長できるという喜びをかみしめています。

●これから幼稚園の先生をめざす男性へ

私のまわりには、男性の先輩がおられますので、自分自身で、自分の道をきりひらいていかなければならない課題もあります。しかし、だからこそ喜びも発見も味わえると思います。

最後に、「男性の幼稚園教諭養成機関が少ないので、もっと男性にも門戸を広げていただければ」とつけ加えられました。河野さんは、現在市内ただ一人の男性幼稚園教諭として、頑張っております。



『男女共生を考える 大田原のつどい』  
開催!

例年、開催されます『男女共生を考える大田原のつどい』が、来る十一月二十八日(土)、大田原市総合文化会館ホールで開催されます。

本年度は記念すべき第十五回の「つどい」で、国際医療福祉大学吹奏楽部のサククス演奏やフリーランスライターゆみこ・ながい・むらせさん、エッセイスト村瀬春樹さんをお迎えし、「トーク・イン・トーク」『二十一世紀はジェンダーフリーの関係で』などが催されます。

女性も男性も、両性のあるべき姿を学習するよい機会です。男性の方も、ふるって参加されますことを、お待ちしております。

◆ご覧下さい◆

総合文化会館玄関とロビーに女性問題についての情報(女性情報・婦人展望・女性ニュース紙など)を展示してあります。どうぞご覧下さい。

## 女性大学基礎講座 地域セミナー開催

九月十一日・二十五日の両日、県・栃木女性センター・大田原市共催の女性大学基礎講座地域セミナーが文星短大山口哲子先生を講師にお迎えし、盛会裡に開催されました。講演内容の一部(要旨)をご紹介します。

紹介いたします。

### 『第一部 女性学って何』

女性学の基本となる考え方

\*女性も、一人の人間として、自分で考え、自分の意思で自分の行為を決定したり、社会的な生活態度を選択できるように社会をつくること

### 女性学の流れ

\*一つの流れは、高等教育(大学・短大)などの中で取り組んでいるもので、わが国では一九七〇年代から

はじまりました。二つめの流れは、政府が取り組んでいる男女共同参画社会の流れで、行政が深くかかわっています。三つめは民間の女性運動の流れです。

### 女性学とは

\*これまでの学問は、男性中心に人間や社会を説明してきたが、女性の視点で、学問分野を再検討してみようとする考え方や、女性の開放、女性問題の解決、男女平等思想を基本とする考え方で、この考え方をフェミニズムとも言えます。この視点がなければ、女性学とは言えません。

### フェミニズムの思想

\*社会の様々な制度・習慣・人々の意識の中に性別があることを認識して、それをなくすことをめざす思想です。

### ジェンダーという概念

\*これには、二つの視点から見なければなりません。その一つは男・女という生物学的性差であり、もう一つ

は社会的・文化的・歴史的につくられた性差で、後者をジェンダーといっています。

### 『第2部 ジェンダーを越えて自分らしく生きる』

ここでは、紙面の都合により、北京世界女性会議の歴史的背景のみにてご紹介いたします。

### その歴史的背景

\*一九六〇年代に、アメリカにはじまった女性の自立と参加、女性を解放しようとする運動で、世界に広まり国連にも影響を与えました。  
\*一九七五年から十年間を「国連婦人年」とし、第一回世界女性会議がメキシコシテイで開催されました。

それ以前の女性解放運動は、性別役割分業の社会通念をなくそうとする運動ではなく、階級支配から解放しようとする運動でした。

\*一九七九年「性に対するあらゆる差別」(女性差別撤廃条約)が国連で採択され、わが国では一九八五年に、

この条約が批准されました。

\*この条約は、女性の人権にとって画期的なもので、あらゆる分野をカバーしているといわれている条約です。(女性に対する差別とは)

\*これを定義するときは、つぎの三つがあげられます。

それは「性に基づく区別・排除・制限」です。

\*一九九三年、世界人権会議がウィーンで開催されたが、「女性の権利は、人権である」という文言が、スローガンとして掲げられました。が「女性の権利は、人としての権利である」ということです。

最後に先生は、このような

歴史的背景を認識して「女性が男性と同じように、一人の人間として、自分の意思で自分の行為を決定し、社会的生活態度を選択するという考え方は、国際的にも、日本社会にも浸透しつつあります。これからは、性によって制限されたり、拘束されたりすることなく、個性や能力を発揮し、自分らしい生き方をめざすことが大切でしょう」と締めくくられました。

## 編集後記

◇朝夕の冷気も一段と身にしみる季節となりました。「ぱんく」第五号をお届けいたします。

◇今回は、市女性問題懇話会委員の寺沼先生のご寄稿と山口先生のご講話の要旨で、紙面を飾らせていただきました。

どちらも示唆に富んだ内容です。皆さんとともに、考えたいと思います。

